

# 満漢字清文啓蒙に於ける満洲語音韻の考察 (2)

池 上 二 良

An Inquiry into the Phonology of Manchu in  
the *Man-han-tzū Ch'ing-wên-ch'i-mêng* (2)

Jirô IKEGAMI

§ 21 単字末の s に対しては、十二字頭の第七字頭において、現代北京音が ssũ<sup>1</sup> である思の漢字が当てられてゐる。この場合も子音だけを表すといふ明瞭な根拠は見出されぬから、本稿ではこれを sũ と転写する。これが音節末ないし語末の無声子音を示すとは必ずしも言へない。

なほ、aššambi (動く), faššambi (勉める) 等の語においては、š が連続してゐる。十二字頭には š が単字末に現れる例がなく、そのことによるのであらうが、当該単語は本書において満洲外聯字の条に挙げられてゐる。すなはち、

|            |      |            |         |
|------------|------|------------|---------|
| aššambi    | 阿詩沙噍 | ašišami    | 活動。     |
| hoššombi   | 豁詩説噍 | huošīsuomi | 誰哄。     |
| gūwaššambi | 瓜詩沙噍 | guašīšami  | 肉跳。又片肉。 |

先行する š に対しては、詩を当ててゐる。

ザハーロフは北京のシナ化した満洲人について、

(前略) なほそのほか北京の満洲人は、子音文字のかさなることに耐えぬシナ語に応じて、半母音 ʃ の代りに母音を挿入して aššambi を ашшамби の代りに ашшамби (ashishambi) と発音する。<sup>(57)</sup>

と記してゐる。

本書の当該箇所当てた漢字が、この様な音を表すのか、或はやはり重子音を表すものであるかはあきらかでない。

§ 22 異施清字の条には、またつぎの形がみえてゐる。

|     |            |    |      |
|-----|------------|----|------|
| 44ウ | -ga-, -ga  | 哈  | ha   |
| 〃   | -gan       | 憨  | han  |
| 〃   | -gangge    | 夯哦 | haŋě |
| 〃   | -go-, -go  | 豁  | huo  |
| 〃   | -gon, -gūn | 婚  | hun  |
| 〃   | -gongge    | 烘哦 | huŋě |
| 〃   | -gū-       | 呼  | hu   |

すなはち、これら単字の g が h の音を表してゐる。なほ、この記述は、四十六丁表より前から、本書において一般的事実であると言へる。この事実は清語易言にもみえる。すなはち、

ga (嘎) を, ha (哈) と言ふ,  
gan (干) を, han (漢) と言ふ,  
go (郭) を, ho (火) と言ふ,  
gon (觀) を, hon (歡) と言ふ,

gūn (棍) を, hūn (渾) と言ふ,  
とある。すべて異施清字の条にみえる単字である。欽定清漢対音字式には第一字頭, 第四字頭  
及び第五字頭につぎの様に記されてゐる。

ga 重読 噶平声読。語気内応読作(中略)哈字者。仍以(中略)哈字対音。  
go 重読 国。郭。俱平声読。語気内応読作(中略)和字者。仍以(中略)和字対音。  
gan 重読 幹幹字平声読。語気内応読作罕字(中略)者。仍以罕字(中略)対音。  
gon 重読 觀。官。語気内応読作歛字者。仍以歛字対音。  
gang 重読 剛。綱。語気内応読作杭字者。仍以杭字対音。

哈和罕歛杭は, この書においてそれぞれ ha, ho, han, hon, hang に当てた漢字である。gang  
は, 単字としては異施清字の条に挙げてない。

ザハーロフは, また北京のシナ化した満洲人についてつぎの様に記してゐる。

硬母音字 a, o (a, o) と結合する硬音の喉音字 r (g) は北京の満洲人によつて語頭  
においてだけ常に書かれる様に発音されるが, しかし語中では, 特に指小名詞におい  
て ga (ga) の音節の後に半音節の нь (n) が続くとき, つぎの様な読方からは諸概念に  
曖昧と混乱とが起るけれども, しばしば x (h) に発音される。例へば aga ara 雨,  
aha axa 奴僕, dogo dogo 盲人, doho doho 石灰, ajirgan aчжиргань 牡馬, ajirhan  
aчжирхань 牡犬は等しく axa, doho, aчжирхань と発音される。<sup>(58)</sup>

ここでは, 語中の ga, go 一般について述べてゐる。aga についてはラートロフは aγambi と  
いふ語を記してゐる。<sup>(59)</sup> これには意味が付してないが, おそらく agambi (雨が降る) である  
と思ふ。ほかに ahambi といふ語はちよつと見当らぬからである。すると, その g に対してやは  
り摩擦音が現れるとみられる。ルードニェフの調査の口語には上述の事実に該当する語として,

аҗа дождь (雨) 文語形 aga

があるが, やはり摩擦音が現れてゐる。

すなはち, 文語の a, o, ū と結合する g は一般に後軟口蓋有声閉鎖音を表すのであるが, 語  
中においては摩擦音ないし摩擦的な音を表すことが以上の資料から知られる。これは明かに或  
口語を反映するものとみられ, 文語のかかる g に対してその口語ではこの音が現れるとみられ  
る。

この事実について, 母音間の場合はつぎの様に考へられる。後軟口蓋有声閉鎖音は, その場  
合に閉鎖が不完全で破裂が弱くて摩擦音的になると考へられる。一方, 文語の a, o, ū と結合  
する h に対する音も摩擦音であつて, 服部先生の調査された口語では [h] が現れるが, 上掲の  
様に (§ 17) 軟口蓋後縁における摩擦音であることが多いのである。さらにこの摩擦音は上述  
の様に (§ 18), 母音間では有声のことがあるのである。したがつて, この場合には, 特に本来  
は閉鎖音である上述の音がこの摩擦音に非常に近くなり, さらに混同することはありうるの  
である。

本書の清字辨似の条の点圈字辨似の項には, 後軟口蓋音を表す g と h が語中の同位置に現れ  
る点を除いては同形である二単語づつを意味を付して対照してゐる。これは, 上述の事実によ  
り g と h が近い音ないし同音であり, それらを含む単語間に混同を生ずるので, それを区別す  
るためであらう。挙げられた単語中には, 母音に続く g 及びザハーロフの示した例にもみられ  
る r に続く g 以外に, m, s に続く g もみられる。異施清字の条にも r に続く g の例がある。

すなはち,

45ウ gergen gargan がやがやわいわい

この語は, 二単語を続けて読む場合は哥尔根噶尔竿 gergen gargan であり, gargan だけを読

む場合は garhan であると記してゐる。

50オ serguwešembi 塞爾豁除嚙 sěrhuošēmi 涼む  
子音、主として r に続く際のこの事実については、なほ考察すべき点がある。異施清字の gar-  
gan の例は、gergen に対して語呂を合せる場合にその g に合せて g であることは注意される。  
また、serguwešembi の同根語 serguwen (涼しい) は sěrkun となり (§16), r の後の子音が  
無声化しているのが注意される。

おなじ語において母音間で g とも、h とも書かれる例もあり、たとへば、

|              |   |                                |
|--------------|---|--------------------------------|
| boigocilambi | 半収 (御製増訂清文鑑農工類三)                                | } 穀類を間をおいて収獲する <sup>(60)</sup> |
| boihocilambi | 種的糧食間着得了。(清文彙書)                                 |                                |
| boigoji      | } хозяинъ (主人) (ザハーロフ満露辞典)                      |                                |
| boihoji      |   |                                |
| saligan      | } самостоятельность (独立), власть (権力) (同上書)     |                                |
| salihan      |   |                                |
| ibagan       | } недоброжелательный (悪意のある), злой духъ (邪な靈魂), |                                |
| ibahan       |   |                                |

また、r の後で g とも、h とも書かれた語例もある。たとへば、

|         |                          |                       |
|---------|--------------------------|-----------------------|
| cerguwe | 魚子 (御製増訂清文鑑海魚類二)         | } 魚の卵 <sup>(61)</sup> |
| cerhuwe | 魚等物之子。与 cerhuwe 同。(清文彙書) |                       |
| kargama | 馬騾等牲口後胯即五岔骨。(清文彙書)       | } 馬の尻 <sup>(62)</sup> |
| karhama | 馬屁股梁 (御製増訂清文鑑馬匹肢体類一)     |                       |

以上は、後軟口蓋有声閉鎖音を表す g についてであるが、異施清字の条にはさらに前軟口蓋  
有声閉鎖音を表す g についてつぎの様な語形がみられる。

|     |         |      |          |          |
|-----|---------|------|----------|----------|
| 48ウ | šugi    | 書稀   | šuhī     | 樹液       |
| "   | tugi    | 禿稀   | tuhī     | 雲        |
| 49ウ | febīgi  | 仏逼稀  | fēbihi   | しろこ虫, 地虫 |
| 52オ | temgetu | 賦模呵禿 | tēmuhētu | 記号, しるし  |

šugi については、ザハーロフの辞典にも šugi, šuhi の二形を載せてゐる。febīgi については、  
同辞典にこの形のほかに古形 febiki\*, febihi\* がある。temgetu は g が m に続く形である。こ  
れだけの語例からでは、この場合の g についても上述の g と同じ現象がひろくあつたと考へる  
ことはできない。なほ逆に文語の h に g の当る例もある。すなはち、

47オ ejihe 惡飢哥 ējigē 乾酪の類  
がある。

なほ、考へるに、口語の或方言では母音間の後軟口蓋有声閉鎖音と調音位置の同じ摩擦音と  
は明瞭に区別されてゐるが、他の方言ではその閉鎖音をしばしば摩擦音に発音し、さらに別の  
方言では母音間のその閉鎖音が摩擦音に変化したとも考へられる。そして、この方言では、子  
音に後続する後軟口蓋有声閉鎖音もときには摩擦音になるのではないかと想像する。

### 破 擦 音

§23 十二字頭及び切韻清字の二条において、c, j (ただし ci, ji の場合を除く) を頭にもつ  
単字および切韻字に対しては、現代北京語で ㄘ, ㄐ (注音符号に拠る) を声母にもつ漢字をそれ  
ぞれに単独に当てるか、ないし反切上字に使つてゐる。ci, ji を含む単字及び切韻字に対して  
は、現代北京語で ㄘ, ㄐ (注音符号に拠る) を声母にもつ漢字をそれぞれ用ゐてゐる。一方、ki,

gi を含む単字及び切韻字に対しても、それぞれ ㄍ, ㄎ を声母にもつ漢字を同じ様に使つてゐるが、ただし ki, gi の場合に用ゐられた漢字にはいづれも咬字念と付記してゐる。

なほ ca に当てた差には、現代北京語では ch'a<sup>1</sup>, ch'ai<sup>1,4</sup>, tz'ü<sup>1</sup> の諸音があるが、本書では昌呀切と併記してあるから、ch'a を表すとみられる。

ce に当て、また cei の反切上字に使つてゐる車は、現代北京語で ch'è<sup>1</sup> のほかに chü<sup>1</sup> の音を極まれにもつが、本書には ce の箇所成噓切と併記してある。成の現代北京音は ch'èng<sup>2</sup> であるから、本書でも現代北京音の前者に相当する音を表すとみられるが、なほ反切下字の噓には問題がある。(§ 27)

cuwai に当てた揣は現代北京語で ch'uai<sup>2,3,4</sup>, ch'ui<sup>2</sup>, t'uan<sup>2</sup> の諸音をもつが、音韻逢源では巳部六、乾一、壁十四、離二にみえるから、現代北京音 ch'uai<sup>3</sup> に相当する音とみられる。本書でもこれに相当する音を表すとみられる。異施清字の条49オの抓は抓 chua<sup>1</sup> とみなす。

jiowei に当てた厥の現代北京音には、chüeh<sup>2</sup> のほかに k'u<sup>4</sup> があるが、これは通常音ではない。

kiowan に当てた圈は、現代北京語で chüan<sup>1</sup> のほかに chüan<sup>4</sup> の音があるが、これも通常音ではない。

十二字頭及び切韻清字の二条において、外字 ts 及び dz を頭にもつ単字、切韻字に対しては、現代北京語で ts', ts を声母にもつ漢字をそれぞれに単独に当てるか、または反切上字に用ゐてゐる。すなはち、この二つの外字はそれぞれシナ語のかかる音韻を写すためのものとみられる。

なほ ts'an に当てた叅の現代北京音は明かではないが、音韻逢源には丑部二、坎二、虚十一、巽一に叅がみえる。これは現代北京音の ts'an<sup>1</sup> に相当する音を表すものであらう。本書でもこれに相当する音を表すとみる。

ts'e に当て、また ts'ei, ts'en, t'seo の反切上字に用ゐる拆は、現代北京語では ch'ai<sup>1</sup>, ché<sup>1</sup>, ts'é<sup>4</sup> の諸音があるが、本書では ts'e の箇所層哦切と併記してあるから ts'é を表すとみられる。

ts'u に当てた粗の現代北京音には ts'u<sup>1</sup>, tsung<sup>1</sup> があるが、tsung<sup>1</sup> は通常の音ではない。音韻逢源でも戌部十一、乾一、虚十一、巽一にあり、現代北京音の ts'u<sup>1</sup> に相当する音を表すものであらう。

ts'ao に当てた操は、現代北京語で ts'ao<sup>1</sup>, tsao<sup>4</sup> の音があるが、音韻逢源には辰部五、坎二、虚十一の巽一及び坤三にみえるから、現代北京音の ts'ao<sup>1,4</sup> に相当するとみられる。本書でもこの音を表すと考へられる。

十二字頭第一字頭において、外字 c'y, jy に対しては、現代北京音で ch'ih<sup>1</sup>, chih<sup>4</sup> をそれぞれ表す吃及び智が当ててある。なほ吃には、現代北京語で chi<sup>4</sup> の音もあるが、吃の通常の音ではなく、本書では現代北京語の chi<sup>4</sup> に相当する音を表すとはみられない。なほ c'y, jy の表す音は、必ずしも外国語音ではないのではないかと考へる。

上述の様に、ci, ji の場合を除いて、c, j に対しては、現代北京音の（注音符號で表す）ㄘ, ㄐ が相当してゐる。この二音の漢字表記を ċ, j̄ と転写することにする。また ci, ji の場合の c, j に対しては、現代北京音の（注音符號で表す）ㄍ, ㄎ が相当してゐる。この二音の漢字表記を ċ, j̄ と転写することにする。つぎに外字の ts, dz に対しては現代北京音の ts', ts が相当してゐる。この二音の漢字表記を c, j と転写する。外字 c'y, jy に対しては現代北京音の ch'ih, chih が相当してゐる。この二音の漢字表記を ċi, j̄i と転写する。

従つて、ċ, ċ, c 及び j̄, j̄, j と転写される漢字表記から、本書の満洲語にはこのような二系列の破擦音があると考へられる。

服部先生の調査された口語では、つぎの様に音読されてゐる。なほ満洲字 **ㄗ** に対するメレンドルフ式転写法は不明といふことで記されてゐないが、**ㄗ** に対する ts にならつて本稿ではかりに dz と転写する。

|      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |
|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| ca   | ce   | co   | cu   | cū   | ja  | je  | jo  | ju  | jū  |
| tʃa  | tʃə  | tʃò  | tʃu  | tʃù  | dʒa | dʒə | dʒò | dʒu | dʒù |
|      | ci   |      |      |      |     | ji  |     |     |     |
|      | tʃi  |      |      |      |     | dʒi |     |     |     |
| tsa  | tse  | tso  | tsu  | ts   | dza | dze | dzo | dzu | dz  |
| ts'a | ts'ə | ts'ò | ts'u | ts'ü | dʒa | dʒə | dʒò | dʒu | dʒü |
|      | c'y  |      |      |      |     | jy  |     |     |     |
|      | tʃi  |      |      |      |     | dʒi |     |     |     |

すなはち、c, c' に対しては無気音、ts に対しては帯気音が現れ、j (jy の場合の j も含めて)、dz に対しては半有声音が現れてゐる。反転音 [tʃ] [dʒ] の反転の度は [ʃ] に準ずると注に記されてゐる。また [tʃ] [dʒ] について、註には、「[tʃ] は日本語の「チ」の子音に近い affricate。[dʒ] も口腔内に於ける調音法は [tʃ] に同じ。」とある。

ザハーロフは、ci の場合を除く c 及び c' を **ч** と、ci の場合の c 及び ts を **ц** と表し、また ji の場合を除く j 及び jy の場合の j を **ж** と、ji の場合の j 及び dz を **цз** と表してゐて、やはり同様な音韻体系に立つとみられる<sup>(63)</sup>

アダムも、tch 及び dch が母音 i の前で ts 及び ds と発音されることを記してゐる<sup>(64)</sup>

アミオの満洲韃靼語文法は、閉鎖音の場合と同様にいきの出る (aspiré) tch および一本調子 (un ton uni) の tch の二種を認めてゐて、後者について「またそれは若干の語において tch の代りに tʃ (訳註 ts に等しい) の様に発音される。」と記してある。また発音法を述べた箇所では、「tcha はときどき dja の音をもち、tché は dze (訳註 dze に等しい) の音をもつ、其他略。」とある。tch が tʃ であるのは tchi の場合ともみられ、dja, dze となるのは tch の一種が半有声音であることを示すともみえ (§5 参照)、また dʒe が dje でないのが注意される。

なほわづかに管見できる無圏点十二字頭において<sup>(65)</sup> 語中ないし文節中で有圏点満洲字 **ㄗ** が極めてしばしば無圏点満洲字では **ㄗ** と書かれてゐる点に注意される。これがどういふ意味かについて述べることは、さらに精しい調査の後に譲りたい。

シュミットはつぎの様に述べてゐる。

**ㄗ** (c, è) 及び **ㄗ** (z, ž) の文字は、北満洲において **ㄗ** 及び **ㄗ** の様に発音されるが、これに反して南満洲ではそれらは母音 i の前で c 及び z の様に響く<sup>(66)</sup>

一般に満洲語の破擦音と上述の摩擦音とについて歯擦音に関する記述も、その音の調音に際しての舌の位置ないし形について記してないものは、重要な価値があるとは言へない。

服部先生の調査された口語における破擦音の音価は、満洲語の破擦音文字体系よりみても不合理なものではない。本書の c, j 及び ç, j も、それぞれ音韻的に区別される歯茎音及び反転音を示すものとして考へて行きたい。ただしそのうちの çe, je については多少疑問があり、以下の節で述べる。 (§27 参照) なほ、c と é, j と j のそれぞれが示す音の間には、音韻的区別を認めることはいらぬだらう。

§24 十二字頭及び切韻清字の二条において、si, hi の場合の s, h に当てた同音字を区別して **ś, ħ** と転写することはすでに述べた (§17)。ki, gi の場合の k, g にも、ci, ji の場合の c, j に当てたと同じ **к, ґ** (注音符号に拠る) の音の漢字を当ててゐるが、この場合もその c, j を **é, j** と転写するのと区別して **k, g** と転写する。

ガーベレンツはこの点につて、

i の前の k は ts 或はドイツ語やイタリー語の z の様に発音される、i の前の g は ds と発音される。i の前の tch は ts と、i の前の dch は ds と常に発音される<sup>(67)</sup>と述べてゐる。

アルレも、ki と c'i は tsi と発音され、gi と j'i は dsi と発音されると記してゐる<sup>(68)</sup>

メレンドルフも、満洲語の多くの単語は現今シナ語のいくつかの発音上の特性を以つて発音され、従つて i と e の前の k は ch' であり、i と e の前の g は ch であり、i の前の h と s は hs であると記してゐる<sup>(69)</sup> e の前の場合についても記してゐるのが注意される (§ 27 参照)。

渡部薫太郎氏もメレンドルフと同様のことを記し、なほ §19 に述べた事実にも触れてゐる<sup>(70)</sup> 清語易言も、この点に関して同様であると考へられるふしがある。(§ 41 参照)

この点についてのザハーロフの記述は、すでに服部先生が訳して紹介されてゐるから<sup>(71)</sup> ここには訳出しないが、北京のシナ化した満洲人はシナ語の北方方言に応じて ki, gi, hi を ci, ji, si の様に発音し、他のシナ化しない満洲人は文字通り発音すると記されてある。

すでに服部先生が指摘された様に<sup>(72)</sup> この発音はシナ化した特殊な満洲語におけるシナ語の音韻体系に基くものとみられる。

服部先生の調査された口語においても、

|     |    |    |     |     |    |
|-----|----|----|-----|-----|----|
| ki  | gi | hi | ci  | ji  | si |
| k'i | gi | xi | tsi | dzi | si |

と音読して区別されてゐる。なほ「[k'i] [gi] [xi] 等は、口腔に於ける調音法は夫々日本語の「キ」「ギ」「ヒ」に近い。」と註がある。音読のほかに [gin] (町 город) の単語も採録されてゐる。

ラートロフの調査の錫伯方言におけるこの点は、かれによつて上掲の記述 (§ 2) 中に指摘されてゐる。

ルードニエフの調査の口語には、この点についてつぎの語例がある。

|        |                    |     |          |
|--------|--------------------|-----|----------|
| арки   | водка (酒)          | 文語形 | arki     |
| кїрэңи | кость (骨)          | "   | giranggi |
| кїаер- | разговаривать (語る) | "   | gisure-  |
| сóngi  | капуста (キャベツ)     | "   | sogi     |

この口語には ci, ci, ci, ci, ci 等の音節があり、これらのほかに上例の様な ki, ri 等の音節が存するのである。

また一学三貫清文鑑の十二字頭の第一字頭、第二字頭及び第五字頭の条に、

|    |       |    |       |    |       |    |    |       |    |       |    |       |    |
|----|-------|----|-------|----|-------|----|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| ke | 碯     | ge | 哥     | he | 呵     | 团音 | ki | 欺     | gi | 鷄     | hi | 稀     | 团音 |
| 团音 | kioi  | 杼  | gioi  | 車  | hioi  | 徐  | 尖音 | cioi  | 杼  | jioi  | 車  | sioi  | 徐  |
| 团音 | kiong | 窮  | giong | 拳翁 | hiong | 熊  | 尖音 | ciong | 窮  | jiong | 拳翁 | siong | 熊  |

とある。すなはち k, g, h を团音とよび、c, j, s を尖音とよぶとみられる。この尖団の区別は尖つた字と丸い字といふ文字上の区別ともみられるが、これが音上の区別を意味することを述べたものがある。すなはち清漢文海の凡例の一条には、

一字有尖団之分惟山左不学而能一失口即知其優劣各書竝無明白開載而討論家頗不肯及  
蓋同一音属喉而又属齒牙舌唇者喉音為团余音為尖是尖団二字乃俗語也是集亦有分別  
按其尖団各入一条因一字即可知其余矣<sup>(73)</sup>

とある。シナ語の山東方言に言及してゐる点は興味がある。尖団の区別のこの様な説明によれば、上掲の一学三貫清文鑑の記述も上述の音の区別を示すものとみることができる。

既述の様に本書の十二字頭及び切韻清字の二条において、ci 及び ki を頭にもつ単字、切韻

字に対して現代北京音で同一声母をもつ漢字を当ててゐる。なほ同一漢字を当ててゐる例も少ない。<sup>(74)</sup> *ji* 及び *gi* を頭にもつ単字、切韻字に対しても、また *si* 及び *hi* を頭にもつ単字、切韻字に対しても、この点が同様である。しかし *c, j, s* の場合と異り、*k, g, h* の場合に用ゐた漢字にはいつも咬字念（文字を正しく読む）と付記してゐる。咬字念については最初にみえる第一字頭の *ki* の箇所ですべて具体的に説明してゐる。すなはちつぎの様にある。

咬字者。舌尖下貼。舌根上貼也。余俱同此。

この場合の舌根が舌のどこを指すかは必ずしも明かではないが、同一声母の漢字を当てる *c, j, s* に比較して舌のさらに奥の部分が閉鎖ないし狭窄にあづかることを意味するとみてよいであらう。この点において *c, j, s* と *k, g, h* が発音上相異なる二系列であると考へられる。従つて、すでに述べたように、この場合の *c, j, s* と *k, g, h* を *ć, ĵ, ś; k̄, ġ, ĥ* の二系列に区別して転写する。ただし、咬字念と付記して区別してゐるのは、十二字頭及び切韻清字の二条の単字及び切韻字の場合とほかに満洲外単字の条だけであるが、他の場合は漢字の当てられた満洲字に基いて区別し転写することにする。*ć, ĵ, ś* と *k̄, ġ, ĥ* の二系列は音韻として区別されてゐるとみられるが、*k̄, ġ, ĥ* については本書の別の点から *[k, g, x]* の硬口蓋化音を示すと考へられる (§40 参照)。

清字辨似の条の音同字辨似の項についてはすでに (§4) 触れたが、そのなかには *ci* と *ki*, または *ji* と *gi*, または *si* と *hi* がそれぞれ語中の同位置に現れる点を除いては同形である二単語も意味を付して対照してある。(§4 で(㉒)の場合としたのはすなはちこれらの語を言ふのである。) その項にこれらの単語を対照したのは、先にも触れた様に漢字によつて表音すると同一音となるゆゑか、或はシナ化した特殊な満洲語においてはこの *ci, ji, si; ki, gi, hi* の音韻上の区別が失はれて単語間に混同を生じたゆゑと考へられる。なほ「*sirga* 獐子。又銀合色馬。*hirha* 火石。又衣長令裁截。」の一例には、*sir* と *hir* の相違のほかに *ga* と *ha* の相違が含まれてゐる（これについては §22 参照）。

異施清字の条にはつぎの語がある。

45ウ *yargiyūn* 呀爾<sup>駒雍切</sup> *yargūn* 本当か

51ウ *giltukan* <sup>駒淤切</sup> 勘禿堪 *ġūlūtukan* 俊秀な

駒の漢字の現代北京音は *chū<sup>1</sup>*（注音符號でㄔㄨ）であるが、本書の十二字頭及び切韻清字の二条には満洲字に当てられた例はみられなく、従つていはゆる咬字念であるかどうか不明である。しかし本稿では、この場合の *g* が *j* でなく *ġ* であるとしても異施清字の意味があるといふ消極的な理由から、満洲字 *g* に即して *ġ* と転写する。従つてまた異施清字の条は、一般にこの二系列に関しては積極的な意味をもたないのである。

なほ異施清字の条にはまたつぎの語がある。

50ウ *ginggin* 京陰 *jinyin* 重量の単位(斤)

京は十二字頭及び切韻清字の二条には使はれてゐない漢字であるが、現代北京音は *ching<sup>1</sup>*（注音符號でㄔㄩㄥ）であり、この場合は *jīn* と転写する。（もし *ġīn* とみるならば、異施清字の意味が生じないのである。）この語は、上記の意味のシナ語からの借用語とみられる。なほ、この語には、「犬が噛まない様に頸に繋りつけた木」の意味もあるが、この意味における語形がどうかは不明である。

§25 異施清字の条にはつぎの一群の例がある。

47オ *aciha* 阿吃哈 *ačīha* 馬、駱駝に積んだ荷  
 “ *ecike* 惡吃碯 *ěčīkě* 叔父

|     |          |                  |          |           |
|-----|----------|------------------|----------|-----------|
| 47ウ | kacilan  | 喀吃 <sup>拉英</sup> | kačīlan  | 射的の練習の矢   |
| 48オ | gocikū   | 郭吃枯              | guočíku  | 鎧の膝穿き     |
| "   | gocika   | 郭吃喀              | guočíka  | 水が減退した    |
| "   | hocikon  | 豁吃坤              | huočíkun | 容姿のよい     |
| 48ウ | taciha   | 他吃哈              | tačíha   | 学んだ       |
| "   | tucike   | 秃吃磕              | tučíkě   | 出た        |
| 49ウ | kuwecihe | 顆吃呵              | kuočíhě  | 鳩         |
| 50オ | hancikan | 憨吃堪              | hančíkan | やや近い      |
| "   | sanciha  | 三吃哈              | sančíha  | 牛、駱駝等の鼻かぎ |

すなはち語中の ci に対して čī が現れてゐる。また、

|     |         |     |          |            |
|-----|---------|-----|----------|------------|
| 48オ | hojihon | 豁之婚 | huoǰihun | 女婿         |
| 49オ | kejine  | 磕之諾 | keǰinė   | 余程の間、たくさんの |
| 51ウ | jilgan  | 之攪慙 | ǰilūhan  | 声          |

之は十二字頭及び切韻清字の二条に使つてない漢字であるが、現代北京音は chih<sup>1</sup> であるから、智と同様に ǰi と転写する。すなはち語頭及び語中の ǰi に対して ǰī が現れてゐる。

この事実は、シナ化した特殊な満洲語において ki, gi がそれぞれ čī, ǰi に混同した結果少くとも若干の語において čī, ǰi が čǐ, ǰǐ に移つたことによるものともみられるが、しかしなほまたつぎの様に考へられる。すなはち、c'y, jy の表す音が必ずしも外国語音ではなく、そして § 19 に述べた摩擦音に関する様な事実が破擦音についても或程度に存するのではないかとみられる。

清語易言にはつぎの記述がある。

ci (七) を, ši (師) と言ひ, また c'y (吃) と言ふ,

ǰi (吉) を, ju (朱) と言ひ, また jy (之) と言ふ,

と記してゐる。c'y, jy と言ふといふ点がこの場合注意される。ju と言ふといふのは、おそらく § 31 に述べる変化を指すものであらう。また ci を ši と言ふといふ点については、異施清字の条にはその例はみえぬが、やはり注意すべきものである。

なほ異施清字の条のつぎの一例を付記する。

47ウ gaji sehe 噶思塞呵 gasū sēhē 持つて来いと言つた

これは、先行語の語尾の i が脱落して j が後続語の語頭の s に同化した形を反映するものかもしれない。

## 母 音

### a

§ 26 十二字頭の条において、第二字頭及び第十字頭以外の字頭における a を含む単字（すなはち ai, ao の場合を除く a を含む単字）に対しては、現代北京語で単母音 a をもつ漢字が単独に当てられるか、或は反切字に用ゐられてゐる。<sup>(75)</sup> ただし y, w を頭にもつ単字については後述する。

なほ、a に対して当てた阿の現代北京音には、a<sup>1,3,4</sup>, o<sup>1</sup> の音があるが、本書では昂亜切と併記してゐる。昂亜は、本書ではほかに使はれてゐない漢字であるが、現代北京音はそれぞれ ang<sup>1,2</sup>, ya<sup>3</sup> であるから、阿は現代北京音の a に相当する音を表すとみる。

ta に対する他は、現代北京語で t'a<sup>1</sup> のほかに t'o<sup>1</sup> もあるが、通常の音は t'a<sup>1</sup> であり、本書でもこれに相当する音を表すとみる。



ža に当て、žai, žan, žang に対する反切上字に使はれる饒の現代北京音は、jao<sup>2</sup> であるが、本書の ža の箇所では然呀切と併記してある。然、呀の現代北京音は、それぞれ jan<sup>2</sup>, ya<sup>1</sup> であり、本書のこの場合は現代北京音 ja に相当する音を表すとみる。しかし žao に当てた饒には本音念と付記してあり、やはり本書でも饒の本来の音とするのはその現代北京音に相当するものとみられる。

すなはち、上に述べた場合の a に対しては、現代北京音の a が当てられてゐる。この漢字表記を本稿では a と転写する。

なほ、異施清字の条には、すでに述べた様に啊、安の漢字が用ゐられてゐる (§12 参照)。

服部先生の調査された口語では、第一字頭の単字中の a は [a] と音読されてゐる。

本稿でも、a の文字の音価は基本的にはかかるものとする。

### e

§27 第二字頭及び第十字頭を除く十二字頭の各字頭のなかで、e を含み、かつその頭に唇音文字をもたぬ単字に対しては、現代北京語で単母音 ê をもつ漢字が、単独に当てられるか、或は反切上字に用ゐられてゐる。ただし ke, ge, he, se, ce, je, še 等及び y を頭にもつ単字については後述する。

なほ de に当て、また dei, den の反切上字に用ゐられる得の漢字の現代北京音は、tê<sup>1,2</sup>, tei<sup>3</sup> であるが、本書では de の箇所では登哦切と併記してあり、現代北京音の tê に相当する音を表すとみられる。

ne に当て、また nei, nen, neng, neo の反切上字に用ゐられる諾の現代北京音は、no<sup>4</sup> であるが、本書では ne の箇所では能哦切と併記してあり、この韻母は現代北京音の ê に相当する音であるとみられる。

le, re に当て、またそれらと -i, -n, -ng, -o が結合した諸単字に対する反切上字に用ゐられる勒の現代北京音には、lê<sup>1,2,4</sup>, lei<sup>1</sup> 等があるが、本書では le, re の両箇所では婁哦切と併記してあり、現代北京音の lê に相当する音を表すとみられる。

また単字 e に当て、ei, en, eng, eo に対する反切上字に用ゐてゐる惡の漢字の現代北京音には、ê<sup>3,4</sup>, wu<sup>1,4</sup> がある。音韻逢源でも、この漢字は、申部九、坎二、胃十七、坤三にあり、また戌部十一、乾一、胃十七の巽一及び坤三にもある。すなはち、惡は現代北京語の ê<sup>4</sup>, wu<sup>1,4</sup> に相当する音をやはり表してゐる。しかし、本書では現代北京語の ê に相当する音を表すとみる。

すなはち、e に対しては、現代北京音の ê が当てられてゐる。この漢字表記を本稿では ê と転写する。

he に当て、また hei, hen, heo の反切上字に用ゐる呵の現代北京音は、ho<sup>1</sup> であるが、本書では he の箇所では哼哦切と併記してあり、その韻母は現代北京音の ê に相当する音であり、本稿では hê と転写する。

ke に当て、また kei, ken, keo の反切上字に用ゐる磕、及び ge に当て、また gei の反切上字に用ゐる哥のそれぞれの現代北京音は、k'o<sup>1,4</sup>, ko<sup>1</sup> であるが、呵の場合に準じてそれぞれ kē, gē と転写する。この点は、現代北京語の ho, k'o, ko の音節中の母音を、北京音の他の諸表記法で、tê, dê, lê 等の諸音節中の母音と同じに表記してゐるゆゑ、不当ではないだらう。<sup>(76)</sup>

ce に当て、cei の反切上字に使ふ車の現代北京語の通常音は、ch'ê<sup>1</sup> であるが、本書では ce の箇所では成噎切と併記してゐる (§23 参照)。また、je に当て、jei の反切上字に使ふ遮の現代北京音は、chê<sup>1,4</sup> であるが、本書では je の箇所では針噎切と併記してある。še に当て、また šei の反切上字に使ふ除の現代北京音は、shê<sup>1</sup> であるが、本書の še の箇所には生噎切と併記して

ある。さらに *se* に当て、また *sei*, *sen* の反切上字に使ふ塞の現代北京音は、*sai*<sup>1,4</sup> であるが、本書の *se* の箇所では僧噎切と併記してある。本書において、子音文字に *e* の結合した単字に対して反切を併記する他の例では、反切下字に哦を用ゐてゐて、噎を用ゐた例は上記の四例である。哦の現代北京音は *e*<sup>1,2</sup> であり、やはり *ě* と転写される。一方、噎が反切下字に使はれた例は切韻字の場合にもみられ、*miye*, *liye* に対してそれぞれ嚙噎切、哩噎切の反切が当ててあり、本稿では *mie*, *lie* と転写するものである。また、清字切韻法の条において、*biye* (鰲) の反切を *bi* (逼), *ye* (噎) と記してゐる。噎の現代北京音は *yeh*<sup>1,4</sup> である。*ce*, *je*, *še* に当てた車, 遮, 除は、それぞれ *čě*, *jě*, *šě* と転写されるべきものであらうが、*čě*, *jě*, *šě* の反切下字に噎が使はれず、噎であることは注意すべきである。なほそれぞれの反切上字の成, 針, 生, 僧の現代北京音は *ch'êng*<sup>2</sup>, *chên*<sup>1</sup>, *shêng*<sup>1</sup>, *sêng*<sup>1</sup> である。これらの反切が併記された単字の音は、現代北京音の *ê* をもつ漢字が単に当てられた単字の音とは或は異なるのかもしれない。上述の様に (§ 23) アミオは *tché* がときどき *dze* の音をもつと記し、またメレンドルフは *i* の前と同様に *e* の前でも *k*, *g* が *ch'*, *ch* であることを記してゐる (§ 24) のも、この点に関係があるのだらうか。しかし、なほ単なる臆測であるから、*ce*, *je*, *še* の単字についても *čě*, *jě*, *šě* と転写する。また、*se* については、現代北京音 *sai*<sup>1,4</sup> が当てられてゐるが、併記された反切の下字の噎を、哦とやはり同様に取扱つて *sě* と転写する。

§ 28 唇音文字 *p*, *b*, *m* に *e* が結合した単字に対しては、それらの唇音文字に *o*, *ū* が結合した単字に対すると同様に、現代北京語で単母音 *o* をもつ漢字が当てられてゐる。すなはち、これらの *e* 及び *o*, *ū* には現代北京音の *o* が当ててある。この漢字表記を本稿では *o* と転写する。

なほ、*fe* に対しても、*fo*, *fū* に対すると同様に現代北京語で *fo*<sup>2</sup> の音をもつ仏の漢字を当ててゐるが、*fe* の箇所では風哦切と併記し、*fo*, *fū* の両箇所では風窩切と併記してゐる。従つて、発音の区別を認めて、前者は *fe* と、後二者は *fo* と区別して転写する。<sup>(77)</sup>

唇音文字 *p*, *b*, *m*, *f* に *en* 及び *eng* が結合した単字に対しては、それらの唇音文字に *o*, *u*, *ū* が結合し、末尾に *n*, *ng* をもつ諸単字に対すると同様に、現代北京語で単母音 *ê* をもつ漢字が単独に当てられてゐる。ただし、一つの例外があり、*meng* に対しては摸英切とあり、*mong*, *mūng* に対しても同様であるが、*mung* には模英切とある。すなはち、この例外を除いて、これらの *e* 及び *o*, *u*, *ū* には、前節 (§ 27) に述べた単字の場合と同様に、現代北京音の *ê* が当ててある。この漢字表記をやはり *ě* と転写する。例外の場合の *meng*, *mong*, *mūng* に対する摸英切及び *mung* に対する模英切は、それぞれ *mon*, *mun* と転写する。

この事実に関連してザハーロフにつぎの記述がある。

э (e) の文字は唇音の子音字 б, п, м, ф, в (b, p, m, f, w) に接すると大抵短い о (o) に発音される。例へば *sibe* сибо (sibo), *benembi* бонэмби (bonembi), *bebereke* боборэкэ (boboreke), *pelehen* полэхэнь (polehen), *mederi* модэри (moderi), *memereku* момо-рэку (momoreku), (しかし *eme* *meme* の諸単語は эмэ (eme) мэмэ (meme) と正しく発音される) *fe* фо (fo), *fetembi* фотэмби (fotembi), (しかし *fekun*, *feshen* 等の諸単語は фэкунь (fekun), фэсхэнь (feshen) と正しく発音される) *we* во (wo), *weren* ворэнь (woren) *wenembi* вонэмби (wonembi)。

しかしもし半音節 и, нь, нъ, съ (y, n, ng, s) が唇音の文字に先行するか、或は唇音子音字と音節を構成する母音字 э (e) の後に続くならば、母音字 э (e) のもとの音は回復する。例へば *eimembi* эймэмби (eymembi), *beidembi* бэйдэмби (beydembi), *pei* пэй (pey), *meiren* мэйрэнь (meyren), *feifumbi* фэйфумби (feyfumbi), *weihe* вэйхэ (wey-

he), weihu вэйху (weyhu), mentuhun мэнътухунъ (mentuhun), pen пэнъ (pen), ben-jimbi бэньцзимби (bentszimbi), fen фэнъ (фынь) (fen (fuin)), wenjembi вэньчжэмби (wenchjembi), bengneli бэннэли (bengneli), peng пэнъ (peng), fengse фэнсэ (fengse), mengse мэнсэ (mengse), wengke вэнкэ (wengke) (時々 вонкэ (wongke)), feshen фэс-хэнъ (feshen), pes пэсъ (pes)。

しかし他の半音節 къ, тъ, лъ, мъ (k, t, l, m) がつくとも母音字 ə(e) は o に発音される。例へば bekdu**n** бокдунъ (bokdu**n**), bethe ботхэ (bothe), belhembi болхэмби (bolhembi), membe момбо (mombo)<sup>(78)</sup>

註一 唇音文字と組合はさる際の ə(e) の文字の発音の多様性はシナ語の北方方言の影響から生じた、その方言には бэ, пэ, мэ, фэ, вэ, бонъ, понъ, монъ, фонъ, вонъ (be, pe, me, fe, we, bon, pon, mon, fon, won) の諸音節は無いが, бэй, пэй, мэй, фэй, вэй, бэнь, пэнь (пынь), фэнь (фынь), вэнь (вынь), бэнъ, пэнъ (пынь), мэнъ (мынь), фэнъ (фынь) (bey, pey, mey, fey, wey, ben, pen (puin), fen (fuin), wen (wuin), beng, peng (puing), meng (mu-ing), feng (fuing)) の諸音節或は諸単語はあるのである。しかしそれぞれの読み方に反することがしばしばあるが、これはただ言話の実際と行はれてゐる慣習によつてのみ解決される。<sup>(79)</sup>

清字辨似の条の音同字辨似の項には、同一唇音文字のあとに e か、o か、u かの相異なる母音文字が現れる点を除いては同形である単語が意味を付して対照してある。この点で、本書は、ザハーロフの記述にみられる様なシナ化した特殊な満洲語に基くものともみられる。しかし、一方、同項のそれらの例のなかには「fe 新旧之旧。fo 撈氷的堯子。又喂小兒的乳食。」の例もある。fe, fo に対しては、上述の様に十二字頭の条では同一漢字を当ててゐるが、しかし反切でその音を区別してゐるのである。この例から推すと、それらの例は、その音を漢字音で表すと同音となるものであるとも考へられる。

唇音文字に e が結合した単字に対する上述の漢字表記が、本書の基く満洲語の音韻を正しく表すものであるか、或は漢字による表音であるゆゑに本書の基く満洲語の音韻を正しく表さずにかかる結果を呈してゐるかは、本書だけからではなほ見定めることができない。

なほ w を頭にもつ単字については後述する。

§ 29 服部先生の調査された口語では、十二字頭の第一字頭における e を含む単字中の e は [ə] と音読されてゐる。ただし、ye の場合は [jè] と音読されるが、これについては後述する。なほ「[ə] は中開きの平唇中舌母音であるが、新バルガ人のものと比較して云ふと、満洲人のはやや前寄り、(後略)」と註に記されてゐる。しかし採録の語彙中には、

dəxi 四十 文語形 dehi

があり、[dɛ] の音節がみえる。

シロコゴロフにはつぎの記述がある。

è——英語にはこれと同等の音はなく非常に「奥の」e である。ときどきはこれはロシヤ語の sin (息子) における i の音或はシナ語の si (四) における i の音へ近づく。<sup>(80)</sup>

諸文典の記述中、ガーベレンツは、

末尾の e の発音は短い o に似てゐる (以下略)<sup>(81)</sup>

と記し、アダムは、

e は我々の開いた è の価をもつ。ただし n で終る若干の単語の最後の音節の場合を除く、そこではこれは無音 (muet) である。<sup>(82)</sup>

と記し、またアルレはつぎの様に記してゐる。

e は語頭及び語中において開いてゐて、末尾音節の e 或は en においては不分明 (so-urd) である。それはそこでは非常に不分明な短い o である<sup>(83)</sup>

本稿でも、e の文字の音価は、基本的には服部先生の調査された口語の音読に現れる [ə]、すなはち中開きの平唇中舌母音と考へる。

## i

§ 30 第二字頭及び第十字頭を除く十二字頭の条において、i, in, ing のそれぞれの単字に対して現代北京音が i<sup>14</sup>, yin<sup>1</sup>, ying<sup>1</sup> である衣, 陰, 英が当てられてゐる。また頭に i をもち、末尾に n, ng 以外の子音文字をもつ単字中の i に対しても、衣が当てられてゐる。これらをそれぞれ i, yin, yin と転写する。yin, yin の転写については、後述する様に yen, yeng に対してもそれぞれ陰, 英が当てられてゐる点をも考慮したのである。

š, ž, c', j 以外の子音文字を頭にもち、i を含む単字に対しては、現代北京語で単母音 i を含む漢字を単独に当てるか、反切上字に使つてゐる。

なほ、mi に当て、また mi を含む単字、切韻字に対する反切上字に用ゐられた唼の現代北京音は、不明であるが、mi の箇所では明衣切と併記してあり、現代北京音の mi に相当する音を表すとみられる。

ni に当て、また ni を含む単字、切韻字に対する反切上字に用ゐられる呢の現代北京音には、ni<sup>1,2</sup> のほかに na<sup>1</sup> もあるが、音韻逢源にはこの漢字は戌部十一、艮三、尾六、兗四にみえる。すなはち現代北京音の ni<sup>2</sup> に相当する音を表すとみられる。本書でも現代北京音の ni に相当する音を表すとみる。

fi に当て、また fi を含む単字、切韻字に対する反切上字に用ゐられる非の現代北京音は、fei<sup>1</sup> であるが、本書には fi の箇所に芳衣切と併記してあり、声母、韻母がそれぞれ現代北京音の f, i に相当する音を表すとみる。

すなはち、これらの場合の i に現代北京音の i が当つてゐる。この漢字表記を i と転写することにする。

ši, ži, c'y, jy には、それぞれ詩, 日, 吃, 智の漢字を当ててゐる。詩, 日, 智の現代北京音は shih<sup>1</sup>, jih<sup>4</sup>, chih<sup>4</sup> であり、吃のこの場合の音は現代北京語の ch'ih<sup>1</sup> に相当する音と考へられる (§ 23 参照)。すなはちこれらの i に現代北京音 ih が当つてゐる。この漢字表記を i と転写することにする。

なほ žin に対しては、žen に対すると同様に、現代北京音が jên<sup>2</sup> である人の漢字が当てられてゐる。これを žen と転写する。

服部先生の調査された口語では、第一字頭の単字中の i は [i] と音読されてゐる。ただし ši, ži, c'y, jy は別で、それぞれ [ʃi] [ʒi] [tʃi] [dʒi] と音読されてゐる。すなはちこの場合の i は [i] である。本稿でも i の文字の音価は [i]、ただし ši, ži, c'y, jy の場合は [i] と考へたい。

§ 31 異施清字の条にはつぎの語例がある。

|     |     |           |   |          |       |
|-----|-----|-----------|---|----------|-------|
| (イ) | 49ウ | filembi   | 非 <sup>切</sup> 噎 <sup>切</sup> 勒 <sup>切</sup> 密                | fielēmi  | 火にあたる |
|     | "   | fileku    | 非 <sup>切</sup> 噎 <sup>切</sup> 勒 <sup>切</sup> 枯                | fielēku  | 火鉢    |
| (ロ) | 49オ | gisun     | 撮 <sup>切</sup> 淤 <sup>切</sup> 孫                               | gūsun    | 言葉    |
|     | "   | gisurembi | 撮 <sup>切</sup> 淤 <sup>切</sup> 蘇 <sup>切</sup> 勒 <sup>切</sup> 密 | gūsūrēmi | 話す    |
|     | 49ウ | girumbi   | 撮 <sup>切</sup> 淤 <sup>切</sup> 嚙 <sup>切</sup>                  | gūrumi   | 恥る    |

|     |     |             |                                  |             |              |
|-----|-----|-------------|----------------------------------|-------------|--------------|
|     | "   | giru        | 揪 <sup>淤</sup> 切 <sup>嚙</sup>    | gūru        | 恥ろ、骨組み       |
|     | 49ウ | gicuke      | 揪 <sup>淤</sup> 切 <sup>出</sup> 磕  | gūčukē      | 恥かしい         |
|     | 51ウ | giltukan    | 駒 <sup>淤</sup> 切 <sup>擲</sup> 禿堪 | gūlūtukan   | 俊秀な          |
|     | 49オ | kiru        | 阨 <sup>淤</sup> 切 <sup>嚙</sup>    | kūru        | 小旗           |
|     | "   | kirumbi     | 阨 <sup>淤</sup> 切 <sup>嚙</sup> 嚙  | kūrumi      | 雄馬が雌馬を求める    |
|     | 47ウ | nicuhe      | 姪 <sup>淤</sup> 切 <sup>出</sup> 呵  | nūčuhē      | 真珠           |
| (ハ) | 50ウ | ninggun     | 姪 <sup>翁</sup> 切 <sup>温</sup>    | niun wēn    | 六            |
|     | "   | ninggude    | 姪 <sup>翁</sup> 切 <sup>屋</sup> 得  | niun wudē   | 上に           |
| (ニ) | 50ウ | ginggun     | 雞 <sup>雍</sup> 切 <sup>温</sup>    | giun wēn    | 敬ひ           |
|     | "   | ginggulembi | 雞 <sup>雍</sup> 切 <sup>屋</sup> 勒嚙 | giun wulēmi | 敬ふ           |
|     | "   | gingguji    | 雞 <sup>雍</sup> 切 <sup>屋</sup> 飢  | giun wuji   | 謹敬な          |
| (ホ) | 47ウ | niru        | 姪 <sup>嚙</sup>                   | niuru       | 矢、画け         |
| (ヘ) | 48ウ | silun       | 書 <sup>嚙</sup> 切 <sup>温</sup>    | šulun       | 天鼠（動物名）      |
|     | 52オ | simhun      | 書模婚                              | šumuhun     | 指            |
|     | 49オ | jiduji      | 朱堆飢                              | juiduji     | 結局は、必ずや、要するに |
|     | "   | jijumbi     | 朱朱嚙                              | jujumi      | 字を書く         |
|     | "   | cisu        | 出踰                               | čusui       | 特殊、独自、所有     |
|     | "   | cifun       | 出芬                               | čufēn       | 税            |

(ロ) の kiru, kirumbi に用ゐられてゐる阨の漢字は、十二字頭及び切韻清字の二条には使はれてゐない漢字であるが、満洲外単字の条において kioi, kiong に対してそれぞれ阨衣切、阨英切と記し、それに咬字念と付記してある。阨の現代北京音は不明であるが、満洲外単字の条の用例からみて、現代北京音 ch'iu に相当する音を本書では表すとみられる。従つて阨淤切は kū と転写する。なほ<sup>○</sup>淤切の韻母はすべて ü とみ、齋齒呼の父字と翁雍の切の韻母は iung とみて転写する。

これらの例は、語頭音節の i が第二音節の母音に同化したことを反映してゐるとみられる。蒙古語のかかる音韻変化は「i の折れ」とよばれてゐる。

filembi, kiru, jiduji の例は清語易言にもみえてゐる。すなはち、

filembi (烤火) を, fiye le mi と言ふ,

kiru (旗子) を, kioi ru と言ふ,

jiduji (執意) を, ju dui ji と言ふ,

また同書には、

gi (雞) を, gioi (駒) と言ふ,

ni (呢) を, nio (姪) と言ふ,

とあり、これがどういふ場合を指して言ふのかは明かでないが、おそらく上述の音韻変化を示すものであらう。(§ 19, 25 に引用した部分も参照)

シロコゴロフはつぎの語を記録してゐる。

n'iru (満洲語→満洲のツングース語) —— 団体 (軍事的)

niur(n'ur) (満洲語) —— 矢<sup>(84)</sup>

これらは文語の niru に相当する形であるが、満洲語口語とは記されてゐない。

ルードニェフの調査の口語においては、つぎの語形が同様にこの音韻変化によるものと考へられる。

|         |                            |     |            |
|---------|----------------------------|-----|------------|
| бō нуңо | крыша (屋根)                 | 文語形 | boo ninggu |
| ñуңō    | шесть (六)                  | "   | ninggun    |
| ñур-    | писать (書く), рисовать (描く) | "   | niru-      |
| ñурған  | карта (図)                  | "   | nirugan    |

二氏の例からみて、異施清字の条の上掲(困)の niru の語形も「矢, 画け」を意味する語形であらう。なほ文語の niru には「軍隊の一単位」の意味もある。

以上の諸語形のうち(イ)は第一音節の i が第二音節の e に同化した例であり、(ロ)より(ハ)までは第一音節の i が第二音節の u に同化した例とみられる。また(イ)より(困)までの例においては、なんらかの形において i の痕跡があるとみられる。

異施清字の条には、第一音節の i が第二音節の a に同化した例はみられないが、他の資料にはつぎの例がある。

服部先生の調査された吉林省のシナ化した特殊な満洲語において、吉林の老人についてつぎの語形がみられる。

'jā:xl̩, 'jā:xaŋ 牛 文語形 ihan

なほ漢字及び満洲字では雅罕, yahan と書いたと記されてある。これは口語を反映するとみられ、服部先生がすでに指摘された様に、上述の音韻変化により生じた形と考へられる。<sup>(85)</sup> ルードニェフの調査した口語に同様の語形がみられるからである。すなはち、

jāzaŋ корова (牝牛) 文語形 ihan

また同じその口語にはつぎの語形もある。

ɟaŋa, ɟa denŋi (銭), джосъ ([蒙古語] 銭) " jiha

これも同様の音韻変化による形と考へられる。

また文語形 yasa もおそらくこの音韻変化による形ではないかと考へる。<sup>(86)</sup>

#### o, u, ū

§ 32 第二字頭及び第十字頭を除く十二字頭の条において、o, ū, u を含む各単字に対しては、以下に表で示す様に、現代北京語で種々の異なる単母音または二重母音を含む漢字が、単独に当てられるか、或反切上字に使はれてゐる。すなはち、各単字内の o, ū, u には、下表にみられる様な現代北京語の母音が当つてゐる。本稿では、その漢字表記を下表中の括弧内に記した様に転写する。なほ w, y を頭にもつ単字については後述する。

| 単<br>字<br>頭 | イ               |   |            | 口          |   |   | ハ           |   |          |
|-------------|-----------------|---|------------|------------|---|---|-------------|---|----------|
|             | 単字末に n, ng をもたぬ |   |            | 単字末に n をもつ |   |   | 単字末に ng をもつ |   |          |
|             | o               | ū | u          | o          | ū | u | o           | ū | u        |
| それぞれの母音字    | wo<br>(wo)      |   | wu<br>(wu) | wê<br>(wê) |   |   | wê<br>(wê)  |   |          |
| p           | o<br>(o)        |   | u<br>(u)   | ê<br>(ê)   |   |   | ê<br>(ê)    |   |          |
| b           |                 |   |            |            |   |   |             |   |          |
| f           |                 |   |            |            |   |   |             |   |          |
| m           |                 |   |            |            |   |   | o<br>(o)    |   | u<br>(u) |

|     | イ         |          |            | 口         |          |            | ハ         |          |            |
|-----|-----------|----------|------------|-----------|----------|------------|-----------|----------|------------|
|     | o         | ū        | u          | o         | ū        | u          | o         | ū        | u          |
| n   | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) |
| l   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| r   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| š   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| t   | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) |
| d   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| ts' |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| dz  |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| ž   | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(o)  | u<br>(u) | uo<br>(uo) |
| s   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| c   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| j   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| k   | o<br>(uo) | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(uo) | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(uo) | u<br>(u) | uo<br>(uo) |
| k'  |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| g   |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| g'  |           |          |            |           |          |            |           |          |            |
| h   | o<br>(uo) | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(uo) | u<br>(u) | uo<br>(uo) | o<br>(uo) | u<br>(u) | uo<br>(uo) |
| h'  |           |          |            |           |          |            |           |          |            |

なほ、mu 及び単字末の m に当て、また mui, mung, muo の反切上字に使はれてゐる模の漢字の現代北京音には、mu<sup>2</sup> のほかに mo<sup>2</sup> があるが、本書では mu の箇所で蒙屋切と記されてゐるから、やはり現代北京音の mu に相当する音を表すとみる。

du, tū に当て、また duo の反切上字及び切韻清字の条では duwa の反切上字に用ゐられてゐる都の現代北京音には、tu<sup>1</sup>, tou<sup>1</sup> の二音がある。音韻逢源においては、都は戌部十一、乾一、房四、巽一にみえてゐるから、現代北京音の前者に相当する音を表すとみられる。本書でも現代北京音の tu に相当する音を表すとみる。

ko, k'o, kuwe に当て、また koo, k'oo の反切上字に用ゐられてゐる顆の現代北京音は k'o<sup>1</sup> であり、既述の ke に当て、kei, ken, keo の反切上字に用ゐられた磕の漢字 (§ 27) とは同音であるが、本書では ko, k'o の両箇所に空窩切と併記してある。従つて顆は磕と異なる音を表すとみられる。窩は、十二字頭の条で o, ū, we に当て、また oo, ūo, weo の反切上字に用ゐられてゐる漢字であり、さらに o, ū に終る単字に当てる漢字に併記された反切の下字に用ゐられてゐる。すなはち、

|        |   |     |
|--------|---|-----|
| yo, yū | 哟 | 雍窩切 |
| fo, fū | 仏 | 風窩切 |
| no, nū | 挪 | 奴窩切 |

|                |   |     |
|----------------|---|-----|
| co, cū         | 綽 | 冲窩切 |
| lo, lū, ro, rū | 囉 | 龍窩切 |
| zo             | 弱 | 容窩切 |

これらの単字に当てられた母音の漢字表記は、上掲の表にも示した様に本稿では o と転写するが (yo, yū については後述する)、この同一下字を用ゐた反切を併記した顆の漢字は、go, ho 等に当てた郭、豁の現代北京音 kuo<sup>1</sup>, huo<sup>1-4</sup> に準じて、現代北京音 k'uo に相当する音を表すとして uo と転写する。なほ窩の漢字は、切韻清字の条で liowei に囉窩切として使はれてゐる。

清字辨似の条の音同字辨似の項には、相当する位置に hon, hun; son, sun; ton, tun; fon, fun が現れる以外は同形である各二語も対照してある。

§ 33 第二字頭及び第十字頭を除く十二字頭における単字中の o は、上掲の様に wo, wē, o, uo, u, ē の種々の音を本書で示してゐる。これは、やはり漢字による表音であるからか、或はシナ化した特殊な満洲語に基くことによるのであらう。(e については § 28 参照)

服部先生の調査された口語では、第一字頭の単字中の o は [ò] と音読されてゐる。ただし yo の場合は [jò] と音読されてゐる。

本書の十二字頭の条において、第九字頭以外の各字頭の o を頭にもつ単字には、それぞれ以下に掲げる様な付記がある。

すなはち、第一字頭では o に窩を当てて、

此 o 字在聯字内俱念傲。单用仍念窩。

と記してゐる。傲は第十字頭で ao に当てた漢字であり、後節で述べる様に au と転写するものである。第二字頭では oi に威を当て、

此 oi 字。在聯字内俱念<sup>惡意切</sup>。单用仍念威。

と記す。惡意切は ei に当てた反切であり、威、惡意切は後節に述べる様に、wei, ěi と転写するものである。第三字頭では or に窩尔を当て、

此 or 字。在聯字内俱念傲尔单用仍念窩尔。尔字即囉嚕尔。

と記す。なほ囉嚕尔については § 15 を参照。第四字頭では on に温を当て、

此 on 字。在聯字内俱念<sup>惡印切</sup>。单用仍念温。

と記し、第五字頭では ong に翁を当て、

此 ong 字。在聯字内俱念<sup>惡硬切</sup>。单用仍念翁。

と記し、第六字頭では ok に窩珂を当て、

此 ok 字。在聯字内俱念傲珂。单用仍。念窩珂。

と記し、第七字頭では os に窩思を当て、

此 os 字。在聯字内俱念傲思。单用仍念窩思。

と記し、第八字頭では ot に窩賦を当て、

此 ot 字。在聯字内俱念傲賦。单用仍念窩賦。

と記し、第十字頭では oo に窩幽を当て、

此 oo 字。在聯字单字内俱念傲。

と記してゐるが、窩幽は後節で述べる様に ou と転写するものである。第十一字頭では ol に窩擻を当て、

此 ol 字。在聯字。内俱念傲擻单用仍念窩擻。

と記し、第十二字頭では om に窩模<sup>マ</sup>を当て、

此 om 字。在聯字内俱念傲模。单用仍念窩模。



と記してゐる。なほ第九字頭の ob にはかかる付記はない。

これを要約すると, o, or, òk, os, ot, ol, om の単字は, 単独の場合にはその o は wo と読むが, 聯字の一部分を成してゐる場合には, その o は au と読まれる。oi, on, ong の単字は, 単独の場合には wei, wēn, wēn と読むが, 聯字の一部分を成してゐる場合には ěi, ěn, ěn と読む。oo はいづれの場合も au と読むのである。

付記の意図は, おそらく語頭の o が現代北京語における様な二重母音 wo でないことを示すことにあつたらう。その表す母音は明瞭でないが, [ɔ] またはその近似音を表すのではないかと考へる。oo についての付記には他の問題もあり, なほ明かでない。そして単字の o に窩を当てた事情は, 満洲語の母音字 a, e, i, u にそれぞれ現代北京語でのおの異なる母音である阿, 惡, 衣, 屋を当てた結果, o (及び ū) にはさらに異なる母音の窩を当てたものと想像される。従つて, 窩は単に十二字頭における o の単字名にすぎないのではないかと考へられる。oi, on, ong 及び o が他の子音文字に結合した単字についても, 同じ事情にあると考へる。一学三貫清文鑑の十二字頭では, 単字 a, e, i, u に阿, 厄, 衣, 屋を当て, o 及び ū には窩を当ててゐるが, 御製増訂清文鑑の十二字頭においては, a, e, i, u に阿, 額, 伊, 烏を当て, さらに o, ū に対しても鄂, 譌を当ててゐる。額, 鄂, 譌の現代北京音は, それぞれ ê<sup>2</sup>; ê<sup>4</sup>, ao<sup>4</sup>; ê<sup>4</sup> である。これは各単字の音を一層忠実に表さうとする意図によるものとみられる。すなはち, 各単字の相違は異なる漢字によつて示すが, 必ずしも満洲語の各母音にシナ語のそれぞれ異なる母音を当ててはゐないとみられる。

異施清字の条にはこの事実に関してつぎの例がある。

|     |          |         |           |             |
|-----|----------|---------|-----------|-------------|
| 44ウ | o-, ū-   | 傲       | au        |             |
| 47オ | ojorakū  | 傲飢拉枯    | aujiraku  | できない, いけない  |
| 52オ | ombi     | 傲嚙      | aumi      | できる, 為し得る   |
|     |          | または傲模   | aumu      |             |
| "   | ombikai  | 傲模開     | aumukai   | できます        |
| 44ウ | oi-      | 惡衣切     | ěi        |             |
| 45オ | oihori   | 惡意 豁哩   | ěihuori   | 輕忽な         |
| "   | oiboko   | 惡意 撥顆   | ěibokuo   | 年老ひほうけた     |
| "   | oilo     | 惡意 囉    | ěilo      | 外貌, 表面      |
| 44ウ | oo-      | 傲       | au        |             |
| 46オ | ooha     | 傲哈      | auha      | 魚名          |
| "   | ooça     | 傲差      | auça      | 魚名          |
| "   | oori     | 傲哩      | auri      | 人身血氣の原液     |
| 44ウ | on-      | 惡印切     | ěn        |             |
| 45ウ | onco     | 惡印切 綽   | ěnčo      | 寬やかな        |
| 50オ | ondombi  | 惡印切 多嚙  | ěndomi    | ほしいままに振舞ふ   |
| 45ウ | onggošon | 惡硬高切 説因 | ěngwošuon | 魚名          |
| "   | onggolo  | 惡硬高囉    | ěngwolo   | ……する前, 江河の港 |
| 50オ | ongko    | 惡硬顆     | ěngkuo    | 牧場          |

u- については後述する。oi- に対する惡衣切の反切は, ほかに一例しかないが, 十二字頭の条で ei に当てた惡意切と同じ音を表すとみられるから, 同様に ei と転写する。

## § 34 ザハーロフにつぎの記述がある。

シナ化した北京の満洲人は、特に語頭において、oの文字を正しく発音することができないで、それゆゑに北方シナ語方言に合はせて **во** (wo) と発音する。例へば **onggolo** は **онголо** の代りに **вонголо** (wonggolo) と、**oihori** は **ойхори** の代りに **войхори** (woyehori) と、これから満洲語において **foihori** **фойхори** といふその同じ単語の別の表記も現れた。しかし語中では、この母音字が喉音字 **к, г, х** (k, g, h) と結合した際の諸音節において、さらに特に半音節 **нь, нъ** (n, ng) がこの音節に先行するか或はその後に続くならば、**ya** (ua) と発音される、例へば **monggon** は **монгонь** の代りに **монгуань** (mongguan) と、**honggon** は **хонгонь** の代りに **хонгуань** (hongguan) と、なぜならば北方シナ方言には **онь, унь** (on, un) といふ単語はないからである。このことは、シナ文字に書き換へられ、そして満洲人によつてそれから借用された外国語の諸単語を読む際に、考慮に入れる必要がある。<sup>(87)</sup>

前節に述べた十二字頭の条の付記は、この記述の前半にみえるシナ化した特殊な満洲語における発音に対する注意ともみられる。なほ **foihori** についての説明は検討を要する。

異施清字の条にはつぎの語がある。

50ウ **yongkiyambi** 淤汪切 掐啞 **yüankiami** 完全となる

**yong** に対しては、十二字頭の条で **yüng, yung** に対すると同様に雍を当ててゐる。雍は **yun** と転写するものである。この場合の淤汪切は、本書における○汪切の用法からみて、**yüan** またはそれに近い音を表すとみられるが、しかしこれはそのoがuより開いた円唇母音である点を特に示したものである可能性がないこともないだらう。

50ウ **nionggajambi** 舛汪切 啊渣啞 **niuanajami** 擦傷をする  
 52オ **nionggajarahū** 舛汪切 啊渣拉呼 **niuanajarahu** 傷することを恐れる  
 ” **nionggalambi** 舛汪切 啊拉啞 **niuanalami** 擦りむく

なお **nionggajambi** は満洲外聯字の条にもみえ、同様の漢字が当てられ、意味は「磕傷皮肉。」となつてゐる。これらの語についても前例と同様のことが考へられる (§43 参照) が、ただし、切韻清字の条では、舛汪切は **niowang** に当てられてゐる。

また、つぎの語がある。

50オ **donjiha** 端飢哈 **duanjíha** 聞いた  
 または端呢哈 **duanniha**

**don** に対しては、十二字頭の条で **dun** に対すると同様に、敦 (**dun** と転写する) を当ててゐる。この場合も端を用ゐたのは、そのoがuより開いた円唇母音であることを特に示したともみられぬことはないだらう。

さらにつぎの語例がある。

45オ **goimbi** 乖啞 **guaimi** あたる、ぶつつかる  
 ” **goiha** 乖哈 **guaiha** あたつた  
 ” **goibumbi** 乖不啞 **guaibumi** あてる  
 ” **goicuka** 乖出喀 **guaiçuka** 当を得た  
 ” **goiman** 乖媽因切 **guaiman** 様子のよい  
 45ウ **goimarambi** 乖媽拉啞 **guaimarami** 様子よく振舞ふ

**goimbi** は満洲外聯字の条の条にもみえ、同様の漢字を当てて意味は「中。又著。」となつてゐる。**goi** に対しては、十二字頭の条で **g'oi, gūi, gui** に対すると同様に、規 (**gui** と転写する)

を当て、乖は gūwai, guwai に当てた漢字である。これらについても上述のことが言へるが、ザハーロフの満露辞典には goiha に対して gūwaiha の形も挙げてゐる点からみて、やはり guai の形があるとみられる。また、

|     |          |                               |          |          |
|-----|----------|-------------------------------|----------|----------|
| 49オ | joran    | 抓 <sup>拉</sup> 因 <sup>切</sup> | juaran   | 馬の跑走     |
| "   | jordambi | 抓 <sup>尔</sup> 搭 <sup>喀</sup> | juardami | 馬が跑足で馳ける |

があるが、これは問題はない。十二字頭の条で jo, ju にはそれぞれ異つた拙と朱の漢字が当てられてゐるからである。ザハーロフの満露辞典にも joran の同義語として juwaran がみえ、jordambi の同義語に juwarantambi という語がみえる。また清語易言にも、つぎの様にある。

joran (走馬) を, juwa ran と言ふ,

以上の例のあるものは、上掲のザハーロフの記述の後半にみられると同様なシナ語の音韻体系に基く語形であるかもしれない。最後の二語も含めたこれらの語においては、第二音節には o が現れてゐない点も注意せねばならぬ。また語頭音節の母音の長さも問題とならう。

### § 35 ラートロフにつぎの記述がある。

(前略) 一般に満洲語の母音の続き方の諸法則は非常に動揺してゐてさらに詳細な取扱いを要する。母音調和の普く例外なしに守られてゐる唯一の法則は、第一音節の o をそれに後続する広い母音へ働かせる円唇牽引 (Labial-Attraction) である。oño-ro, oño-ro, ġobo-ro, morolo-ro の如き諸形はこのことを示してゐる。この牽引は中性母音 (訳註 広い母音及び狭い母音に対して言ふ) の i の出現によつて常に止められる。

例, mori-lambi, omi-ra.<sup>(88)</sup>

しかし、これが錫伯方言についての記述か、文語についての記述か必ずしも明かでないが、もし文語についてであるならば、事実はこの様に截然とはまだ断定できない様にみられる。

この点について、比較的例外の少い御製増訂清文鑑の文語形においても、例へばつぎの様な例外がみられる。

|         |      |         |       |
|---------|------|---------|-------|
| cooha   | 兵    | hoošan  | 紙     |
| kolambi | 瓦を剥ぐ | sotambi | 撒き散らす |
| tongga  | 少い   | yonggan | 砂     |
| yohan   | 真綿   |         |       |

従つて、文語に反映する母音の円唇性に関する制限については、なほ問題がある。或は o の文字は、語頭音節にあつて第二音節に a がある場合と、語頭音節にあり、さらに第二音節にもある場合とでそれぞれ異なる音価をもつのではないかと臆測される。

服部先生は o の文字の音価を [ɔ] ないし [ò] (はひろいことを示す) と推定される。<sup>(89)</sup>

本稿においても、o の文字の少くとも一つの音価は、やはりその様なものと考へる。しかし、o の文字は、上述の様にもう一つの音価をもつかもしいない。もしもつとすれば、それはさらに狭い後舌母音と考へられる。しかしこの文字についての考察は他日を期したい。

### § 36 第二字頭及び第十字頭を除く十二字頭における単字中の u は、上掲の様に wu, wě, u, ě の種々の音を本書では示してゐる。

ザハーロフはまたつぎの様に記してゐる。

北京の満洲人はしばしばこの文字 (訳註 u を指す) を北方シナ語方言に順応させて **vy** (wu) と発音する。この文字をこれが他の諸音節と (訳註 **съ другими слогами** の意味は必ずしも明白でない) 結合する際特に変へる。すなはち **й** (u) の後に短い **ñ** (y) が続くならば、この音節 **yñ** (uy) はいつもかれらによつてシナ語で **вэй** (wey)

と発音される。そして満洲語においては **вэй** (wey) の音節があるゆゑに、そこから諸単語の意義における概念の混同が生ずる、例へば **уйхэ** uihe 角, **вэйхэ** weihe 齒, **уйлэнъ** uilen 勤務, 奉仕, **вэйлэнъ** weilen 作業, 仕事及び其の他の諸単語は北京の満洲人によつて一様に **вэйлэнъ**, **вэйхэ** (weylen, weyhe) と発音される。ロ) もし **у**(u) の後に半音節 **н** が続くならば、その時は **унъ** (un) といふ単語における **у**(u) の文字が **вэ** (we) すなはち **вэнъ** (wen) と発音される。例へば, unde を **уньдэ** の代りに **вэнъдэ** (wende) と発音するがそれによつて **уньдэ** といふ語の意義は **вэнъ** の与格 **вэнъдэ** といふ語と混同する, undehen を **уньдэхэнъ** の代りに **вэнъдэхэнъ** (wendehehen) と発音する, umpu を **умпу** の代りに **вэнъпу** (wenpu) と発音する。ハ) 特にもし音節 **унъ**(un), 同様に **унъ**(ung) がいずれかの子音文字と(訳註 **съ какою либо согласною буквою** とあるが唇音文字と限定すべきところであらう) 結合するならば、いつもそれらに現れる文字 **у**(u) は **э**(e) と発音される、なぜならば北方シナ語方言には南方シナ語方言に特有な **бунъ**, **бунъ**, **пунъ**, **пунъ**, **мунъ**, **мунъ**, **фунъ**, **фунъ** (bun, bung, pun, pung, mun, mung, fun, fung) の諸単語がなく、これらの単語すべては北方シナ人によつて **бэнъ**, **бэнъ**, **пэнъ**, **пэнъ**, **мэнъ**, **мэнъ**, **фэнъ**, **фэнъ** (ben, beng, pen, peng, men, meng, fen, feng) と発音されるからである。またその同じ北方シナ語方言では **э**(e) の文字が唇音子音の一つと音節を構成してそれ自身の後に半音節の **нъ**, **нъ** (n, ng) をもつと **ы** (ui) と発音されるから、この発音が北京の満洲人によつて満洲語へも移された。例へば, ulabun を **улабунъ** の代りに **улабэнъ** (ulaben) と読む, bungnambi を **буннамби** の代りに **бэннамби** (bengnambi) と読む, pun を **пунъ** の代りに **пынъ** (puin) と読む, demun を **дэмунь** の代りに **дэмынь** (demuin) と読む, munggan を **мунганъ** の代りに **мынганъ** (muanggan) と読む, jalafun を **чжалафунъ** の代りに **чжалафынь** (jalafuin) と読む, funcere を **фунчэрэ** の代りに **фынчэрэ** (fuincere) と読む, fungala を **фунгала** の代りに **фынгала** (fuinggala) と読む。<sup>(90)</sup>

単字 **u** に当てられた屋は、上述の様に **wu** と転写するが、ザハーロフの述べる様に、**ву**(wu) と発音するのがシナ語の音韻体系に立つものかは、なほ検討を要する。シロコゴロフはつぎの様に述べてゐる。

**w** — wood における **w** の音をもつ。(満洲語口語では) それは語頭において通常 **u** に先行する。<sup>(91)</sup>

狭い円唇母音のかかる発音は、満洲語においても充分考へうるものである。

ザハーロフの記述中 (イ) については後に触れる。(ウ) については、唇音文字と結合する **e** の場合に関連する。(§ 28 参照)

**u** に対して本書が示す **wě**, **ě** は、漢字による表音の結果か、或はザハーロフの記述の如きシナ化した特殊な満洲語に基くところのものである。

服部先生の調査された口語では、第一字頭の単字中の **u** は **[u]** と音読されてゐる。ただし **yu** の場合は **[jy]** と音読されてゐる。

**u** の文字の音価については服部先生はさきに **[u]** と推定され、なほ「(之については多少問題がある)」と付記されたが、<sup>(92)</sup> さらに諺文文献中の漢清文鑑における **a** を含む語の **io** の諺文転写が二様ある点から **u** の音価に二種あることを推定された。(漢清文鑑のこの事実については別の拙稿「満洲語の諺文文献に関する一報告」の第三項を参照。) しかし満洲語における母音の円唇性に関する制限がなほ充分には明確でないので (§ 35 参照), この推定にはさらに検討の余地があるかと思はれる。この推定を認めるためには、まづ前述の様に (§ 35) **o** の文字に二種の音価を推定せねばならないだらう。**u** の音価に二種あることは充分臆測されるところ

であるが、なほこの点に關しての詳細な考究は他日に譲りたい。

§ 37 第二字頭及び第十字頭を除く十二字頭における単字中の  $\bar{u}$  は、上掲の様に wo, o, uo, u,  $\bar{e}$  の種々の音を表してゐる。

単字  $\bar{u}$  に対しては、単字 o に対すると同様に、窩が当てられてゐる。これは上掲の様に wo と転写するものである。この窩に対しても、o の場合と同様に (§ 33), つぎの付記がある。

此  $\bar{u}$  字在聯字内俱念傲。単用仍念窩。

異施清字の条でも、上掲の様に (§ 33)  $\bar{u}$ - に対して傲を当ててゐる。この点、語頭の  $\bar{u}$  もやはり現代北京語における様な二重母音 wo でないと考へられる。

一般には、子音文字に結合した  $\bar{u}$  を含む単字に対しては、その子音文字と結合した o を含む単字に対して当てたと同一の漢字が当てられてゐる。この場合の  $\bar{u}$  の漢字表記も、o, uo, u,  $\bar{e}$  と転写するものである。

ただし、k, g, h に結合した  $\bar{u}$  を含む単字に対しては、それぞれ k, g, h に結合した u を含む単字に対して当てたと同一漢字が当てられてゐる。また、t $\bar{u}$  に対しては、du に対すると同一の都の漢字が当ててある。この場合の  $\bar{u}$  の漢字表記も u と転写されるものである。

清字辨似の条の音同字辨似の項には、相對する位置に k $\bar{u}$  と ku 或は h $\bar{u}$  と hu が現れるほかは同形である二単語づつが、意味を付して対照されてゐる。

本書において、 $\bar{u}$  の音価は、k, g, h, t にそれが結合する場合は u の音価に、その他の場合は o の音価に同一かないし近似してゐると一応言へるが、近似の際の程度は不明である。

服部先生の調査された口語においては、第一字頭の音読において k $\bar{u}$ , g $\bar{u}$ , h $\bar{u}$  の  $\bar{u}$  は [u] であり、u と同音であるほかは、他の単字中の  $\bar{u}$  は [ò] であり、o と同音である。ただし y $\bar{u}$  は [jò] であるが、やはり yo と同音である。なほ採録の語彙中にはつぎの語がある。

gòsìn      三十      文語形      gūsìn

すなはち、文語形 g $\bar{u}$  に対して gò である点が注意される。

本書も  $\bar{u}$  の音価については一資料たるを失はぬが、極めて重要な資料とは言へない。この点についての資料として、ザハーロフの記述及び諺文文献がある。これらにより単字  $\bar{u}$  の音価は或程度知られるが、各語に含まれた  $\bar{u}$  については必ずしも十分に知られるとは言へない。(別の拙稿「満洲語の諺文文献に関する一報告」の第二項参照) しかし、この点の考察をさらに進める可能性はある。例へば満洲字で蒙古語を写す際、満洲字  $\bar{u}$  をどう使ふかをみることも参考になる。この点に關する資料として満洲蒙古兼漢清文鑑 (Manju monggo nikan gisun i kamci-buha buleku bithe, Manju monggul kitad ügen ü xabsuraysan toli bičig) がある。この書は分類体の辞書で満洲語、蒙古語、シナ語の単語が対照され、なほ蒙古語は蒙古字と満洲字の二様で書かれてゐる。蒙古語を写す場合の  $\bar{u}$  の用法を示すわづかな例を以下に紹介するが、十分な調査はまだしてゐない。

|      |      |       |       |    |
|------|------|-------|-------|----|
| 一33オ | den  | ūndur | öndür | 高  |
| 一24オ | juhe | mūsu  | mösü  | 氷  |
| 五14オ | gucu | nūkur | nökür | 朋友 |

この書では、ö-, mö-, bö-, pö-, nö-, jö-, čö- 等の ö は、 $\bar{u}$  を以つて写されるものの様である。また ö を満洲字 e を以つて写した例もある。すなはち、

三28ウ duin      derben      dörben      四

三合便覧では、これら蒙古語単語が満洲字でそれぞれ undur, musu, nukur, durben と書かれてゐて、 $\bar{u}$  に対してと区別がない。従つて、この点ではこの書は三合便覧或はまた初学指南、三合語録より重要な文献であり、一方、蒙古語研究にとつても比較的貴重な資料とみられる。

なほまた  $\ddot{u}$  の考察には、御製増訂清文鑑とはやや異つた文語形を含む大清全書 (Daicing gurun i yooni bithe) 及び満漢同文全書 (Manju nikan šu adali yooni bithe) も資料となる。

$\ddot{u}$  の考察も他日を期したい。

#### sy の y 及びその他

§ 38 十二字頭の条の第一字頭で、本来の満洲語音でない音を表す外字 sy, ts, dz には、現代北京音が  $ss\ddot{u}^4$ ,  $tz'\ddot{u}^1$ ,  $tz\ddot{u}^1$  である四, 吡, 茲の漢字がそれぞれ当てられてゐる。この母音の漢字表記を  $\ddot{u}$  と転写する。(§ 17 参照)

また、単字末の s に、現代北京音が  $ss\ddot{u}^1$  である思の漢字が当てられてゐる。この場合の母音の漢字表記も同様に  $\ddot{u}$  と転写する。(§ 21 参照)

また、単字末の  $\ddot{u}$  に対しては、上述の様に勒茲切と記されてゐるから、上と同じ母音がやはり現れてゐて、従つて  $\ddot{u}$  は  $l\ddot{u}$  と転写する。(§ 15 参照)

服部先生の調査された口語では、つぎの様に音読されてゐる。

|              |                |               |
|--------------|----------------|---------------|
| sy           | ts             | dz            |
| s $\ddot{u}$ | ts' $\ddot{u}$ | dz $\ddot{u}$ |

すなはち [ $\ddot{u}$ ] が現れてゐる。

#### 第二字頭の母音字

§ 39 第二字頭において、ai を含む単字に対しては、現代北京語で二重母音 ai を含む漢字を当てるか、或は現代北京語で単母音 a を韻母にもつ漢字を上字とし、衣を下字とした反切を当ててゐる。衣の現代北京音は  $i^{14}$  であり、本書ではほかに単字 i に当てた漢字である。すなはち、ai には、現代北京語の二重母音 ai または反切による a-i が当てられてゐる。これらの漢字表記をそれぞれ ai,  $\ddot{a}i$  と転写する。なほ yai, wai については後述する。

同じ第二字頭において、ei を含む単字に対しては、pei, bei, fei の場合は現代北京語で二重母音 ei を含む漢字を当て、mei, kei, gei, hei の場合は現代北京語で単母音 o を韻母にもつ漢字を上字とし、衣を下字とした反切を当て、他の子音文字に ei が結合した場合は現代北京語で単母音  $\ddot{e}$  を韻母とする漢字を上字とし、衣を下字とした反切を当ててゐる。すなはち、ei には現代北京語の二重母音 ei または反切による o-i,  $\ddot{e}$ -i が当てられてゐる。これらの漢字表記を ei,  $\ddot{o}i$ ,  $\ddot{e}i$  と転写するが、kei, gei, hei の場合の o-i の反切は  $\ddot{e}i$  と転写する (§ 27 参照)。この際、二重母音中の e に対しては、 $\ddot{e}$  と異つて e と転写する。また単字 ei に対しては、惡意切の反切を当ててある。意の反切下字はこの例だけにみえるが、その現代北京音は  $i^4$  であり、やはりその反切を  $\ddot{e}i$  と転写する。なほ wei, yei については後述する。

第二字頭において、ii を含む単字に対しては、現代北京語で単母音 i を韻母にもつ漢字を上字とし、衣を下字とした反切を当ててゐる。すなはち、ii には、反切による i-i が当てられてゐる。これを  $\ddot{i}i$  と転写する。

第二字頭において  $\ddot{o}i$ ,  $\ddot{u}i$ ,  $ui$  を含む単字に対しては、以下に表によつて示す様な現代北京語で三重母音  $\ddot{w}ei$ ,  $\ddot{u}ei$  または二重母音 ei,  $ui$  を含む漢字を当てるか、もしくは単母音 o, u または二重母音  $uo$  を韻母にもつ漢字を上字とし、衣を下字とした反切を当ててゐる。すなはち  $\ddot{o}i$ ,  $\ddot{u}i$ ,  $ui$  には、現代北京語の三重母音  $\ddot{w}ei$ ,  $\ddot{u}ei$ , または二重母音 ei,  $ui$ , または反切による o-i, u-i,  $uo$ -i が当てられてゐる。

| 单字頭      | oi            | ūi          | ui          |
|----------|---------------|-------------|-------------|
| それぞれの母音字 | wei<br>(wei)  |             |             |
| p        | ei<br>(ei)    |             |             |
| b        |               |             |             |
| f        |               |             |             |
| m        | o-i<br>(oi)   | u-i<br>(ui) |             |
| n        | o-i<br>(oi)   |             | u-i<br>(ui) |
| l        |               |             |             |
| r        |               |             |             |
| š        | uo-i<br>(uoi) | u-i<br>(ui) |             |
| s        | ui<br>(ui)    |             |             |
| c        |               |             |             |
| j        |               |             |             |

| 单字頭 | oi          | ūi | ui         |
|-----|-------------|----|------------|
| t   | ui<br>(ui)  |    | ui<br>(ui) |
| d   |             |    |            |
| ts' |             |    |            |
| dz  |             |    |            |
| ž   |             |    |            |
| k   | uei<br>(ui) |    |            |
| k'  |             |    |            |
| g   | uei<br>(ui) |    |            |
| g'  |             |    |            |
| h   | ui<br>(ui)  |    |            |
| h'  |             |    |            |

wei, ei, ui, o-i, u-i, uo-i の漢字表記は wei, ei, ui, oi, ui, uoi と転写する。

koi, kūi, kui, k'oi に当てた盃および goi, gūi, gui, g'oi に当てた規は、現代北京音がそれぞれ k'uei<sup>1</sup>, kuei<sup>1</sup> であるが、本稿では他の ui の転写に準じて kui, gui と転写する。この点は、現代北京語の k'uei, kuei の音節中の母音を第一声、第二声の場合にウェイド式の ui の様に表す他の表記法もあるゆゑ、不当ではないだらう。<sup>(93)</sup>

oi, ūi, ui に当てられた威の wei といふ音が、§ 36 のザハーロフの記述の (イ) に述べられた様なシナ化した特殊な満洲語のものか、或は漢字によるので満洲語の音韻を不正確に表してゐるものかはやはり不明である。この点、子音文字と oi, ūi, ui の結合した単字に当てた漢字音についても、同様のことが言へる。

y, w を頭にもつ当該単字については後述する。

第二字頭の単字中の母音字 ai, ei, oi, ūi, ui の音価はなほ明確でないが、おそらく一般には下向二重母音を表すものであらう。

なほつぎの例は注意すべきである。すなはち異施清字の条には、

49ウ aibingge 愛遍英哦 aibiine どこの方か

の例がある。この遍英は反切の意味とも思はれるが、断定できない。従つてまた bi と in は異なる音節であるか、或はまた ii は長母音または二重母音を表すかは不明である。

さらに満洲外聯字の条には「ya baingge 呀辯英哦 那地方的。」「jaingge 齋英哦 第二箇

的。」「weingge 威英哦 誰的。」「suingga 雖英啊 遭孽的。又孽賬冤家。」の例がみえる。これらはそれぞれ ya baiiṇe, ʃaiiṇe, weiṇe, suiṇa と転写されるものであり、その英が反切下字を意味するとはなほ断定できない。aii, eii, uii がどんな母音を表すかは不明である。正書法上 yod+yod と yod を重ねて書く場合（ただし āleph+yod の書法もある）の i に、かかる漢字が当てられてゐる点、字面にとらはれたものであらうか。

（続く）